

# 紅梅會會報



第 95 号

## 会長あいさつ

49 回生 藤村 龍子



猛暑の日々が続いていますが、会員の皆様はどのような日々をお過ごしでしょうか。

3月11日、宮城県牡鹿半島沖を震源とした東日本大震災は、日本観測上最大のマグニチュードを記録。巨大な津波によって一瞬にして多くのいのちを奪い生活の場を破壊していきました。時間の経過とともに福島原発事故の余波は思いもよらぬ形で日本全国に波及し、人々の暮らしを脅かし続けている実情があります。被災地の人々の復興に努力する逞しい姿や生きることへの力強い声や笑顔は、反対に他の人々

へも勇気と希望を与えています。常に、いのちと向かい合っている医療人として“今 何をなすべきか”を、自ら問う日々が続いているのではないのでしょうか。

さて、慶應義塾の学内においても復興への叡智を集積し発信する活動が多く見られます。

例えば、東日本大震災に関わる社会貢献活動の紹介や危機対応緊急フォーラム、大震災復興についての、中長期的視野をテーマに学際的・横断的活動として開催されています。

今後とも、復興には相当の時間と労力が必要だと思いますので、会員相互の支援の輪を広げる仕組みを考えてゆきたいと思っています。

### ◆第68回紅梅会書面総会へのご協力に感謝いたします

5月8日開催予定でありました第68回紅梅会総会は、日本を震撼とさせた大震災の事情から、役員会の緊急会議によって書面総会に決定しました。審議事項の承認とともに、会員皆様の安否の情報、家屋の損壊等、生活困難な状況を体験している方々の情報を得ることができました。今後、会員の連絡網のシステム作りが検討されました。書面総会の審議事項結果は、回答者全員の承認によって可決いたしました。詳細については次頁の総会報告でご確認ください。皆様のご協力に感謝申し上げます。

### ◆慶應義塾大学看護医療学部開設10周年を迎えたことへのお祝い

看護医療学部は看護短期大学（1988年開設）から、第9番目の学部として2001年4月開設。日本の看護系大学が200校に及ぶ今日において、他大学に比較して、遅かったと歴史的省察を受けるでしょう。しかし、長い専修学校・短期大学の時代における優秀な人材育成の基盤を継承した結果であることは、社会的にも承認されていることです。

同窓会は、大学化に向けて微少なながらも募金を蓄積し、現在も大学在籍者へ支援を継続しています。会員皆様とともに10周年の足跡にお祝いの声援を送りたいと思います。

また、大学化に向けてご支援いただいた医学部をはじめ他学部・学外の支援者・協賛者に感謝いたしましょう。すでに発刊された“看護医療学部開設10周年記念誌”に紅梅会代表として、お祝いの言葉を掲載させていただきました。

### ◆紅梅会会員相互の絆を深める同窓会活動の発展

今回の大震災・津波災害や原子力発電所の事故が招いた想像を絶する現状を体験し、会員相互の支援システムが役員会で検討されました。同窓会としての活動が有機的に機能できるように、絆を深める方略の構築を考えています。皆様の建設的な意見を求めています。

## 秋号の主な内容

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| ◆第68回紅梅会総会の報告 …………… 2ページ | ◆第34回 紅梅会研修会のお知らせ … 5ページ                                |
| ◆看護医療学部開設10周年を迎えて … 3ページ | ◆東日本大震災への取り組み … 6～7ページ                                  |
| ◆慶應義塾大学病院のトピックス … 4ページ   | ◆ <small>世代をつなぐ</small><br>[Link age] 活躍する同窓生 …… 8～9ページ |
| ◆看護医療学部だより …………… 5ページ    | ◆新入会員の紹介 …………… 10ページ                                    |

# 紅梅会書面総会の報告

平成 23 年度 (第 68 回) の紅梅会総会は、東京ガーデンパレスで開催する予定でしたが、東日本大震災のため中止と致しました。会員の皆様への平成 22 年度紅梅会活動のご報告と審議事項のご検討を頂くために、今年度は書面を通じた審議をお願いするという初めての試みで第 68 回紅梅会書面総会を実施致しました。

審議事項に対する賛否の意思を頂戴する返信用葉書を 3076 通発送し、そのうち 643 通を返信して頂きました。その結果、下記の表のように審議事項の全項目に対して承認という回答を頂きましたので、会員の皆様の大多数のご承認により、第 68 回紅梅会総会の審議事項を承認とさせて頂くことをご報告致します。

今年度総会が中止となったことで、「毎年参加して皆に会うのを楽しみにしていたのに残念」といった声も聞かれました。来年度の第 69 回紅梅会総会は、今年度の企画を引き継ぎ、御茶ノ水駅近くの「東京ガーデンパレス」で開催する予定です。次年度の総会が多くの皆様のご参加を頂き楽しく開催できますよう準備して参ります。

(短 1 回生 山岸 直子)

審 議 事 項		承認の有無	
【審議事項 1】平成 22 年度	収支決算報告	承認する	643 名
		承認しない	0 名
【審議事項 2】平成 23 年度	事業計画 (案)	承認する	643 名
		承認しない	0 名
【審議事項 3】平成 23 年度	収支予算案 (案)	承認する	643 名
		承認しない	0 名
【審議事項 4】平成 23 年度	新役員・委員 (案)	承認する	643 名
		承認しない	0 名

\* 返信用葉書の発送数 3076 通、返信数 643 通

## 2011 年 慶 應 連 合 三 田 会 大 会

2011 年 10 月 16 日 (日) 午前 9 時 受付開始 慶應義塾大学 日吉キャンパス

### 深めよう社中の絆、広げよう社中の輪

### 社中の絆で東日本を応援しよう

慶應連合三田会大会とは慶應義塾を卒業した塾員たちが、毎年秋に慶應義塾大学日吉キャンパスに集結して開催するオール慶應の同窓会です。2011 年慶應連合三田会大会には、紅梅会会員はどなたでも参加可能です。ぜひご参加ください。

詳しくは 2011 年慶應連合三田会大会ホームページを参照してください。

<http://www.2011mitakai.com>

紅梅会としての企画はありません。

# 看護医療学部 開設10周年を迎えて

早いもので、2001年に開設された看護医療学部は今年10周年を迎えました。慶應義塾大学9番目の学部として誕生するにあたりましては、紅梅会の皆様はじめ多くの関係者の方々の熱意とご尽力によるものと心から感謝致しております。

慶應における看護教育のはじまりから今日まで、慶應義塾の「独立自尊」の建学精神、人間を尊重する精神は連綿と引き継がれています。看護医療学部は、伝統を踏まえさらに21世紀これからの時代に対応する人材を育成することをめざし、人間性豊かに幅広い視野を持って看護をとらえる人材、その看護の視点を生かし複雑で多様な時代における保健、医療、福祉の新しいあり方を先導できる人材を育てることを学部の目的としています。

学生は湘南藤沢と信濃町両キャンパスでの講義、演習、実習で専門性を磨きながら、他学部の科目履修やサークル活動での交流を通して人間性豊かに学んでいます。

医学部附属看護婦養成所を卒業された青田与志子様からのご寄付により「教育研究奨励基金」を開設することができ、毎年多くの学生が海外研修科目や、個人・グループによる諸外国での自主的な研究・実践活動を行い、国際的な活動力を養っているのも本学部の特徴となっています。

また医学部、看護医療学部、薬学部との合同教育がまさに今年開始され、歴史的な意味合いを感じずにはおられません。これは初期教育においてそれぞれの学部の1年生同士が、後期教育においては最上級生同士がグループワークを行い、互いを知り、力を合わせて課題を解決していくことで、医療専門職の連携の必要性を討議していくものです。今後、学生たちが社会人として巣立ち、実践の場で協力し合い、人々のニーズに応え専門性を発揮した連携を実現してくれることを願っています。

卒後の進路は、毎年8～9割くらいが病院、保健所、企業等で看護師、保健師、助産師として働き看護実践家としての道を選択します。慶應義塾大学病院には6割程度が就職し、大学病院看護師の約3割が学部の卒業生となってきました。卒後すぐに一般企業に就職する者や進学する者もいます。看護実践家として3、4年目頃に転機を迎え、看護の専門性をさらに高めるため大学院に進学する者、研究・教育職をめざす者、国際的な活動分野に入る者、健康ビジネスに関わる者など活躍の場が広がっていく傾向がみられます。

看護医療学部は大学病院看護部と一体となり、看護職キャリアシステム構築にかかわる研究、実践活動を行っています。さらにこれからの時代、ケアの質を向上させ、効果的な実践のあり方を導く看護ベストプラクティスを開発し、その蓄積と普及活動のための拠点をつくり、世の中に発信、貢献していくことをめざしています。

今秋11月23日には六本木で湘南藤沢キャンパスのオープンリサーチフォーラムにおいて看護医療学部開設10周年記念シンポジウムを開催する予定です。2018年には慶應看護100年という大きな節目を迎えます。これからの変動の多い時代において真の先導者として活躍できる実力を持った人材を育成していくため学部一丸となって努力していきますので、これからも皆様のご指導、ご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

(看護医療学部長 太田 喜久子)



# 慶應義塾大学病院のトピックス

## 1. 2011年4月新採用者

2011年4月新採用者は116名、うち新卒者112名（慶應義塾大学看護医療学部卒69名・男性6名）、既卒者4名（男性1名）となっています。

## 2. 3号館（南館）建設進捗状況

慶應義塾創立150年記念事業である3号館は、北棟が臨床研究棟として2011年1月竣工となりました。南棟は2011年2月に地鎮祭が行われ着工されました。地上6階、1・2階はPETを含めた最先端画像診断部門とその製剤部門、3階は予防医療センター、リハビリテーションセンター、4階は腫瘍センター、免疫療法センター、5・6階は個室病棟の配置で2012年8月竣工を目指しています。

## 3. 3号館（南館）「予防医療センター（仮称）」の紹介

3号館南棟「予防医療センター（仮称）」（以下、予防医療センターとする）は、2012年8月より人間ドックを開始する予定です。最新鋭の診断機器による大学病院と同等の確かな診断と、関連する医療機関などの連携による予防医学を推進するとともに、基礎および臨床医学教室が協力して新しい予防医学の研究を展開することを主旨としています。健診プログラムは、三大生活習慣病（がん・心疾患・脳血管疾患）や加齢に伴う疾患（骨粗鬆症・認知症など）などを中心として、内容や料金などを検討しているところです。

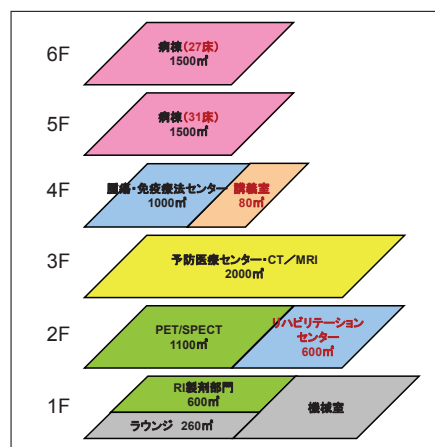
基本コースとして予定しているドックは次のコースです。

- ◆標準ドック（1日4-5時間、上部消化管は内視鏡かX線を選択）
- ◆スーパーがん検診ドック（2日間、PET-CT検査検診を含む）
- ◆消化器ドック（1日5時間、上・下部内視鏡、腹部MRIなど）
- ◆ライトドック（1日3-4時間、主に企業健診）

さらに、標準ドックなどと併せて行う専門的なコースとして、脳ドック、心臓ドック、レディースドック、アンチエイジングドック（女性）やオプションセットとして、メタボリックシンドロームセット、脳血管セットなどを予定しています。今回、リーフレットと資料請求はがきを同封致しましたので、是非、ご一読下さい。また、関心のある方は資料請求はがきを投函していただくと、プログラムが出来上がる11月ごろに詳しい案内を掲載したパンフレットをお送りいたします。



▲ 3号館（南棟）1～6階 2012年4月竣工予定



▲ 3号館（南棟）フロアプラン概要

## 4. 平成21年度文部科学省大学改革推進事業「看護職キャリアシステム構築」の推進

「看護職キャリアシステム構築」は、昨年度、新卒者の教育プログラムを見直し、トレーニングの場の整備、個々のトレーニングを支援する指導者の配置、新卒者が自ら練習に参加する体制を強化しました。その一方で指導者側の課題も見えてきました。本年度は、それらの課題を中心にプログラムを推進するとともに、3年の評価に向けて活動しています。また、ベースライン調査として全看護職員にキャリア発達調査を行い、その結果や研修内容をホームページに掲載する予定です。

(<http://kango-career.hosp.keio.ac.jp/>)



(78回生 鎮目 美代子)

どれだけ医療が発達しても、万人に訪れる「その時」に私たち看護師ができることは、祈ることぐらいしかできないものです。今回の東日本大震災は古今未曾有大災害であり、私どもの祈りが届くかどうかわかりませんが、藤沢の地よりお亡くなりになられた方々のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

看護医療学部では、震災の影響で、1・2年生が5月に、3・4年生は4月中旬に始業しました。特に、5月始業の1・2年生は、土日にも講義があったため「青息吐息」の学生生活を送っておりました。また、節電のために、成績を定期試験の代わりにレポートや授業への出席・態度、小テストで評価されたため、「気の抜けない」状態であったと思います。しかし、同級生同士で助け合ったり、上級生が下級生にアドバイスしたり、学生たちは粘り強くよく勉強していたと思います。

看護医療学部は10周年を迎え、卒業生も教員として就くようになりました。人には「悲しいことを忘れる」という優れた力があります。いつか、今回の在校生も今年の経験を教員として学生に語ることもあるかも知れません。その時には忘れかけられているかも知れないこの震災の悲しさを、後の学生にしっかり伝えてくれるとそう願っております。

(87回生 添田 英津子)

## 第34回 紅梅会研修会のお知らせ

**テーマ** : 患者さんがナースに求めるもの  
～患者支援団体の活動から～

**講師** : 和田 ちひろ 先生  
患者さんの「あったらいいな」を実現する  
「いいなステーション」代表  
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了



和田ちひろ先生

**日時** 平成23年11月11日(金曜日) 18:00～19:30(開場17:30)

**場所** 慶應義塾大学 信濃町キャンパス 孝養舎 202教室

**研修会費** 無料

初めに、東日本大震災に被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

3月11日、日本は未曾有の大震災に見舞われ、復旧・復興に向け国民一人ひとりが各自でできることに取り組んでいることと思います。一方で、政治がドタバタ劇を演じ、「被災者が求めていることはそういうことではなく、一日も早い直接的な支援を」と訴えたメディア報道を耳にした方も多いと思います。政治家も必死で仕事をしているのですが、ニーズと異なることをしては、本当の意味で良い仕事をしているとは言えません。

医療に目を向けてみると、『患者中心の医療』、この言葉が叫ばれてどのくらいの時間が過ぎたでしょうか。日々の看護の中で、本当に私たちは患者さんのニーズにあった看護ができているのか、もう一度原点に立ち戻って一緒に学びたいと思います。

今年度の研修会は、患者支援団体「いいなステーション」の代表をなさっている和田ちひろ先生をお迎えし、患者さんの立場からナースに求めるものについてご講演いただく予定です。会員の皆さま、ご友人や職場の方をお誘いいただき、ぜひ母校に足をお運びください。大勢の皆さまのご参加をお待ちしております。

(短6回生・学3回生 研修委員会委員長 水口 由美)

# 東日本大震災への取り組み

2011年3月、東日本を未曾有の大震災が襲いました。震災で命や家族を失った方々のことを思うと胸が痛むと共に、同じ日本人としてささやかながらも何か力になりたいと願わずにはられません。

紅梅会会員の中にも、実際に被災した方や被災地へ支援者として赴いた方がいらっしゃいます。今回は、医療チームとして現地に派遣された方、教員の立場から震災を経験され方にその体験を執筆頂きました。ご多忙中執筆頂いた方々に、編集委員一同感謝申し上げます。

## 被災地支援 ～福島県相馬市心のケアチームに参加して～

短11回生 河野 佐代子  
慶應義塾大学病院 リエゾン精神看護専門看護師

慶應義塾大学病院では、医師・看護師・薬剤師・事務職員からなる「慶應義塾救援医療団」を結成し、東京都の協力により3月14日より約8週間被災地で活動を行いました。その一環として、4月12日より3週間は東京都の要請を受けて「こころのケアチーム」として3チーム（精神科医・看護師・事務職員）が1週間ずつ活動を行いました。私はリエゾン精神看護専門看護師として、第1グループに精神科医、事務職員とともに参加しました。

今回、私たちこころのケアチームが活動を行った福島県相馬市は、南相馬市同様、地震と津波と原発事故による影響を受けている地域でした。2011年4月12日時点で今回の震災によって500名死亡者・行方不明者がでており、約1400名が避難所生活を送っていました。

相馬市は、元来、精神科を標榜する医療機関が存在せず、震災前は、相馬市の精神科受診患者さんは南相馬市以南の精神科医療施設を受診していました。震災前には南相馬市に単科精神科病院が4か所、精神科診療所が3か所ありましたが、福島第一原発の影響で、震災後から4月までは精神科医療は停止した状態でした。また、相馬市での心のケアチームは活動を開始したばかりであり、南相馬市や相馬市に居住する外来通院中の精神科受診患者さんは、震災後からほとんど精神科医療を受けられない状況にありました。

心のケアチームの主な活動は、避難所で生活をしている方々への心のケアでした。避難所では、各避難所に配置されている保健師と協働しながら、抑うつ状態となっている方の早期発見に努め、精神状態のアセスメントを行いケアにつなげました。また、避難所で生活する精神科受診中の患者さんに対して、医師は処方薬の継続や見直しを行い、私は患者さんと家族に看護を提供しました。さらに、認知症や精神疾患を持つ方が避難所の生活にうまく適応できず、保健師などがケアに苦慮しているケースに対しては、患者さんや家族をケアするだけでなく、保健師に環境整備などのアドバイスをしました。現地の保健師や看護師などの医療者も被災者でありながらケアを続けており疲労困憊していました。私たち心のケアチームは、避難所で活動する医療者へのケアも重要な役割になっていました。

避難所以外の活動としては、相馬市中心部にある公立相馬総合病院にて臨時の精神科外来が開設されており、外来診療を行いました。外来では、薬や薬手帳が津波で流されて薬の処方内容が全くわからなくなってしまった患者さんの処方内容を医師と一緒に検討したり、薬がなくなった後からてんかんの発作を頻繁に繰り返すようになった患者さんや家族へ安全対策を指導しました。また、津波に流されながらも何とか救出された後、重度の不眠・不安を訴えて受診される方や、震災後に自殺未遂をして救急搬送され、救命処置後に精神科にはじめて受診する方などもいらっしゃったため、入院を手配したり、継続した治療につなげるために次のチームに引継ぎをしました。

私は現在、リエゾン精神看護を専門としていますが、通常の臨床活動では体験しない状況を目の当たりにし、支援後もこれでよかったのだろうかと思問自答する日々を送っています。被災地支援を通して改めて「看護とは何か」「精神科医療とは何か」を考えました。今回の体験を今後の臨床活動にも活かすとともに、被災地の方々が1日も早く心穏やかな生活を送ることができるよう、今後も自分にできる支援を続けたいと思います。



▲相馬港から徒歩10分の地点



▲松川浦地区



# 仙台から遠く離れた横浜で 東日本大震災を体験して

学1回生 佐藤 みほ  
東北大学大学院助教

私は2004年に看護医療学部を卒業後、他大学大学院に進学、博士課程修了後、2010年5月より東北大学大学院医学系研究科看護教育・管理学分野助教に着任しました。

7月下旬、今年度も無事に3年生の基礎看護学実習や4年生の領域別実習が終了しました。7月最終週にはオープンキャンパスが盛大に開催されました。今年度もどうにか、上半期を終えつつあります。ほぼ例年通りの学事日程のように見えますが、いつもと違うのは学部2年生以上の講義が開始したのは4月最終週、1年生を迎えたのは5月6日で、8月や9月にも講義があるということでしょうか。

東日本大震災が日本列島を揺るがしたあの時、私は横浜の実家にいました。地震発生から1時間程度経ったころ、テレビに映った光景を見て愕然としました。津波が田畑に押し寄せ、家々が流されていました。その時初めて、事の重大さを認識し、宮城県内の被害の重さを知りました。

真っ先に気になったのは、学生たちのことでした。すでに春休みに入っていた学生たちは三々五々に散らばっています。仙台から遠く離れた横浜にいる自分が今すぐにはできること、しなければならないこと。それは学生たちの安否確認ではないか。

地震発生後から東北大学のサーバーはダウンし、メールサーバーやホームページには一切アクセスできず、医学部どころか大学全体がどのような状況になっているのか、全く情報を得ることができませんでした。ただ、震度6の揺れを記録した仙台市にある本学が、学生の安否と居場所の確認を直ちに行うには、極めて困難な状況にあることは容易に想像できました。

学生のメールアドレスは大学のパソコンに保管していましたが、Webメールに学生からのメールがないか必死で探し、やっと学生8名の携帯のメールアドレスを見つけ出すことができました。8名の学生には「基礎看護学分野の佐藤です。安否の確認が取れた保健学科看護学専攻の学生について学年と名前を佐藤までお寄せください。またこのメールを転送可能な学生に転送をお願い致します」というメールを送りました。講義を担当していた学部2年生や3年生の半数以上から一気に、学籍番号と名前の他に「無事です」というメールが届いたときは、ほっとし、涙が溢れこぼれました。と同時に、彼らの強いネットワークに感心しました。返信が来た学生の名前を次々に書きとめ、保健学科の学生の安否情報として、医学部総務にFAXを送り続けました。

医学部学生全員の無事が確認できたのは、震災発生から5日後でした。津波で甚大な被害を受けた沿岸部周辺に住んでいる学生も、無事に生きていてくれたことが分かった時、やっと息を吐くことができた気がしました。と、震災発生以後数日間について記しましたが、3月11日から1週間くらいについては、正直あまり記憶に残っていません。断片的に残っている記憶と、携帯メールの送受信履歴を振り返りながらこの原稿を書いています。

津波により実習用のユニフォームやネームプレート、教科書などが流されてしまった学生もいましたが、一見したところ、いつも通りの笑顔と騒がしさが見られ、みんな元気に講義や演習、実習に取り組んでいます。4年生はこれから就職活動が本格的に始まります。

仙台市中心部は普段通りにぎわっており、間もなく七夕まつりも開かれます。しかし、人々の生活基盤や運命を揺るがすほどの震災に遭ってしまった今、もう前を向いて進む以外にないという気持ちを抱え、毎日を必死でこなしている人も多くいるのも現状であり、私もそのうちの一人です。ただ、あのような震災の経験がネガティブな経験に留まらず、少しでも人々にとって糧となることを心の底から強く強く祈っています。



▲執筆者 佐藤さん ▲マンションの壁 ▲震災後の街の様子

## ナースシューズを作り続けて50年

〈商品一例〉

本革の優しさ

特価  
メーカー希望 8,715円 ▶▶▶ **5,664円**

No.460A エムエムシューズ(スリッポン)

- サイズ:21.5~26.0cm
- アッパー:ソフト本革
- 中敷き:ドミテックス(光触媒合成皮革)
- ソール:ウレタン
- ヒール高:40mm
- ウイズ:3E

まさに空中散歩

特価  
メーカー希望 5,670円 ▶▶▶ **3,685円**

No.700 ナースエア

- サイズ:22.0~28.0cm
- アッパー:合成皮革/メッシュ
- 中敷き:極厚フットベッドGELインソール
- ソール:E.V.A./合成ゴム
- ヒール高:35mm
- ウイズ:4E

おトク情報

12月末まで限定で富士ゴムナースオリジナルシューズは、慶應大学病院内 B1リネン室(トカイ様)にて本体価格より**35%引き**にてお求めいただけます。商品のご確認にはホームページをご覧ください。

更に! 1足につき1コオリジナルトートバッグプレゼント!

professional footwear service

**富士ゴムナース株式会社**

www.fg-nurse.co.jp

みなさまもご存知の通り、看護職の活躍する場は、病院・地域・企業など多岐に渡っています。また、国内にとどまらず、海外にも活躍する場が広がっています。今回も、現状の自分に満足することなく、新たな自分にチャレンジして、さまざまな場で活躍されている同窓生の方々をご紹介します。

## 介護セミナーを通しての思い

74 回生 松浦 みゆき

私は厚生女子学院を卒業後、慶應大学病院での臨床勤務を経た後、現在まで通算 18 年間にわたり訪問看護に従事しています。

その経験を通して、在宅に戻ってくる方の介護者への ADL のケアについての介護指導が殆ど行われていないことを痛感しました。多くの介護者は、排泄ケア（特にオムツの当て方や選び方）、移乗や移動介助の方法、食事介助の方法について「見よう見まね」で戸惑いながらケアを行い、疲弊していました。

日々の業務に追われる病棟看護師には介護者に日常的なケアの指導を行うことは物理的に無理かもしれません。したがって、退院後に訪問看護師がその役割を担うことになるのだと思いますが、訪問看護師もまた優先順位の高い、切羽詰まった具体的なケアに追われて、その時間をとることが困難です。

在宅生活が始まる前に介護をするための準備ができていたら、この怒涛のような在宅生活をもっとスムーズに始めることができるのではないかと、そう思いました。

そこで、2009 年 2 月から、介護する人もされる人も共に豊かな生活を送ってほしいという願いを込めて「JoyCare」という事業所を立ち上げ、介護セミナーを開催し始めました。在宅介護に必要なと思われる 6 講座をそれぞれ 3 時間、3 日間のセミナーです。その他には「リフト体験ツアー」を企画し、飯田橋にある東京都福祉保健財団で様々な機種のリフトを体験してきました。また、ヘルパー養成講座の講師や一般の人向けに介護の話などを行っています。人に教えるためもう一度知識や技術の確認をするために多くの研修やセミナー、学会に参加し、セミナーで使うテキストを作成し、それをもとに、今年の 6 月には 1 冊の本にまとめることができました。（高齢者ケアマニュアル “看護”の視点を生かしたコミュニティケア増刊 出版社：日本看護協会出版会）

「介護を学ぶこと」に、どれだけの人々が価値を認めてくれるのか、予想が付きませんが、セミナーを通して私自身が学び直し、看護も介護も辛いだけでなく、おもしろくて楽しいと再認識したその思いは始めた頃よりも熱く強くなっています。

楽しい仕事ができること、これこそが開業した喜びであり、何よりも強いモチベーションになっているのです。



▲執筆者 松浦さん ▲セミナーの様子

## ドイツ国際平和村での医療活動

学 2 回生 浅川 真希乃

ドイツ国際平和村へきて 3 ヶ月が経過しました。ここ平和村ではアンゴラやアフガニスタンを初めとした紛争地域や貧困地域の子供たちをドイツへ受け入れ、治療をしてまた母国へ帰すという活動を行っています。

私は 5 月からこの平和村の治療室で研修生としてドイツ人スタッフと共に勤務しています。小児科での勤務経験のない私にとって、子供たちと関わることは試行錯誤の日々です。ここでは 2 歳から 15 歳までの子供たちが治療をしています。国籍や生活水準、病状もまったく異なります。しかし、スタッフも含め子供たち全員が“健康になって家族のもとに帰ること”を目標に毎日治療に励んでいます。

平和村にきて一番驚いたことは子供たち一人一人が自立し、自分のケアを行っていることです。大人でも難しい人工肛門の装具を自身で交換したり、痛みの伴う創外固定器具の消毒や調整を子供たち自身が行ったりしている姿を目にしたとき、子供たちが心から生きたいと思っていることが伝わってきました。治療室へきていた時以外の子供たちは元気いっぱい車椅子で走り回ったり、義足でサッカーをしたりしています。ここにきて子供たちの「生きたい」という思いと触れ、医療の根本にある「命を守る」ことに携われる喜びを改めて感じました。まだまだ臨床経験の浅い私自身にとって、そのことを肌身で感じていられることはここで働くことで得られた一番の成果だと思っています。

今後さらにステップアップをできるように日々子供たちとお互いに切磋琢磨しながら残り 9 ヶ月の平和村での研修生活を有意義に過ごしたいと思っています。

ドイツ国際平和村は、1967 年 7 月 6 日、ドイツ市民の手によって紛争地域や危機に瀕した地域の子どもたちを助けるために設立されました。

詳しくは、ドイツ国際平和村ホームページ [www.friedensdorf.de/Welcome-102.html](http://www.friedensdorf.de/Welcome-102.html) を参照してください。



▲治療室の様子



## 2011年ICN 学術集会(マルタ共和国)に参加して 短11回生 鈴木 恵巨

2011年5月2日～8日にかけて、地中海にあるマルタ共和国で国際看護師協会（ICN）会員協会代表者会議（CNR）及び学術集会が「アクセス、質、健康：看護職はその原動力」のテーマのもと開催され、127カ国から2,088名が参加しました。この一連の会議に日本看護協会の職員として参加をしました。

学術集会前に開催されたCNRはICNの意思決定最高機関として、各国看護師協会の代表者がICN事業や世界の看護の問題について話し合いを持ちました。その中で、世界保健機関（WHO）の看護専門官の職位が十分に確保されていないことに対する声明発表が緊急に決議され、さらに、バーレンの看護師と医師がクーデターで怪我をした市民の治療をしたことを理由に政府に起訴されたことは、医療者の倫理に抵触するとして、各国代表者が急遽プレスリリースの作成を行なうなど、世界に対して看護の立場をいかに表明するかの作業過程を目の当たりにしました。

CNRに続くICN学術集会の基調講演では、ダイアナ・メイソン氏が様々な例を次から次へと挙げながら、看護師は社会格差の是正、アクセスへの解決策を持ち、よりコスト効果を上げることができるという力のこもったメッセージを発信しました。

異なった背景を持つ参加者が、世界が抱える看護の課題について意見交換や交流をした一連の会議を通じ、看護に対する多様な視点、見解に刺激を受けると共に、看護の可能性の広さを改めて実感しました。また、様々な場で東日本大震災に対するメッセージを頂き、世界の看護職の連帯を実感する貴重な機会となりました。

今回は2013年にオーストラリアで第25回ICN4年毎大会が開催される予定です。



▲マルタ騎士団の甲冑 ▲会議場の様子

## たくさんの人に支えられて

短9回生 倉井 和子

人の手がこんなに暖かいとは…と感激しました。陣痛で一番苦しい時、誰か側にいてくれるとどんなに安心するか、そして陣痛で痛いところを優しくさすってくれる人のぬくもりの大きさを実感しました。私はこんなに周りの人に助けられている、そしてお腹の子もたくさんの人の手をかりて生まれてくる、そのことにとっても感激したことを今でも鮮明に覚えています。私のお産を担当して下さった助産師さんは、生命を産みだす力を優しい笑顔からひきだしてくれる人でした。三人の子育てが一段落した後（元々看護師の資格を持っており）助産師学校に入学し、40歳で助産師として働き始めたとのことでした。自分のやりたいことの実現に向かっていくことの勇気ももらい、私も助産師としての一步を踏み出そうと決めました。

私は去年の4月に育児休暇明けで病棟に復帰しました。二人の子育てをしながらの仕事復帰は大変なこともありましたがそれ以上に学ぶことも多くありました。朝、子供が熱を出した場合など仕事も急には休めません。どのようにするのが一番良い方法なのか、その時その時で考えました。一人で頑張るのは時には限界があるので周りの人の力を借りることはとても大切だと思いました。それは臨床で仕事をしていく上でも、個人プレイではなく、チームプレイであることにもつながると思います。周りの人への感謝の気持ちを持ち、より良い人間関係を築くことも大切だと思いました。

約一年間病棟で働き今年の4月から助産師学校に通っています。いざ受験勉強しようにも仕事、子育てをしながらどのように勉強する時間を確保するか試行錯誤していました。その中でいつも心にとめておいたのは、自分なりの、自分に合ったやり方がきっとあるはず、それを信じることでした。今、目の前にあることを積み重ねていくこと、すきま時間に集中していくことでした。幸い電車での通勤時間が30分で乗り換えなしだったためそこが貴重な勉強時間でした。そして何よりも師長さんはじめ、主任さん、病棟スタッフの皆さんの支えがあってここまでくることができたのだと感謝しています。病棟スタッフの皆さんのとても一生懸命で真摯な態度に毎日頭が下がる思いでした。一緒に働くことができたことは私の人生における財産だと思っています。そして自分のやりたいことの実現に向けて支えてくれる家族にも感謝したいです。

一年間の助産師学校では授業のカリキュラムが凝縮され、充実した毎日を送っています。現代の周産期、お産に関わる問題を学び、微力ながら女性、その家族に出産の場がその後の育児、人生に向けて良い影響を及ぼすことができるよう頑張りたいです。



▲執筆者 倉井さん

# 平成23年3月卒業の看護医療学部7回生新入会員の紹介

## 村松 夏実



私は4月より慶應義塾大学病院中央手術部で働いています。学生の頃から手術室看護に興味があり、看護師として手術室で働くことを希望していました。患者さんにとって手術はとても不安の強いライフイベントです。だからこそ、手術室看護師はあらゆる状況に対応したスムーズな器械出し業務や外回り業務における術中管理を通して、手術による患者さんへの侵襲が最低限になるように努めなければなりません。

先輩方のご指導のもと手術を受ける患者さんへよりよい看護を提供できるよう頑張っていきたいと思います。

## 木村 糸織



私は今年の4月から世田谷区の保健福祉センターで保健師として働いています。1万1千人の住民を受け持ち、主に母子保健と精神保健の分野で住民の皆さんから相談を受けたり家庭訪問に出かけたりしています。また、乳幼児健診や母親学級などの事業で一度に多くの人々と関わることもあります。地域で生活している住民の方々との出逢いから、日々たくさんのことを学ばせてもらいながら活動しています。住民一人ひとりが、そして地域全体が『健康』に向かっていくために、保健師として何ができるのか、じっくり考えながら成長していきたいと思っています。

## 石川英里華



私は現在、通信関係の企業で営業職として働いています。看護師にならず一般企業に勤めることを選択したのは、将来的に一般企業に勤めた経験と看護師の経験を両方持ち合わせた上で多面的な視点をもった人間になりたいと考えたからです。現在は全く医療の世界とは異なるフィールドですが、看護医療学部での学びが活かせるのではないかと感じるタイミングが何度かありました。自分が実際に働いてみて看護医療学部で経験した看護実習は看護師になるためのステップだけではなく働く現場を学生のうちから見ることができ、働く人々がどんな思いや考え方で働いているのかを体得できる機会だったのではないかと思います。これからは学生の頃に得た出会いや学びを大切に日々努力していきたいと思っています。

## 中野 香織



北里大学病院小児科（幼児・学童期）病棟に勤務しています。同級生が一人もない所へ就職し、不安もありましたが、今では先輩や同期とおしゃべりをしてから帰ることが日課になっています。小児科は疾患の幅が広く、出来ないことに毎日遭遇し、落ち込むことも多いです。しかし保母さんや学級の先生と、子どもたちが入院している間も生活習慣を維持できるように、一つでも出来ることが増えるように協力し合い関わっていけることに、とても魅力を感じています。これから子どもたちに多くのことを学んで、素敵な看護師になろうと思っています。

## 野澤恵里奈



私は慶應病院の外科系全般個室病棟に配属され、働いています。診療科が特定されていないため、基本的な看護技術だけでなく、日々出会う様々な疾患の学習に追われる毎日ですが、個室病棟ならではの、患者さんとの「1対1の時間」を楽しみながら日々過ごしています。また、病棟全体の教育方針が「とにかく覚える」ではなく「自分で考える」ことに重きを置いているため、着実に根拠を考えながら看護師として成長していける環境に恵まれました。まだまだ看護師人生は始まったばかりですが、一緒に働く皆さんから多くのものを吸収し日々成長していきたいと思っています。

## 第3回 看護ホームカミングデイ開催のお知らせ

### 看護医療学部卒業生の先輩方へ

看護医療学部卒業生のみなさまこんにちは！

例年開催しているホームカミングデイを今年は下記のとおり開催します！

今年は看護医療学部創設10周年と節目の年であります。

幅広い分野で活躍されている先輩方の話を是非聞きたい！と将来に不安を抱いている多くの学生から意見が寄せられています。この節目の年に卒業生と在校生で将来についてやNMCのこれからなどについて語り合いたいです！多くの皆様のご参加をお待ちしています！

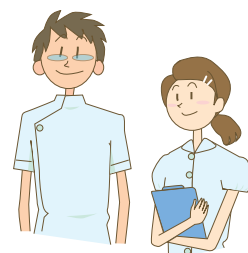
#### 記

開催日： 平成23年11月27日 日曜日  
13:00～16:00

場所： 場所未定（新宿周辺パーティスペース等を考えています。）

詳細については、i08027yi@sfc.keio.ac.jp（岩間裕司）までご連絡ください。

交流企画団体代表：岩間裕司



## 慶應義塾大学看護医療学図書室からのお知らせ

当図書室では、1月11日より図書室内にSFCのITCのアカウントを持っていない利用者がメディアセンターの電子リソースを利用できるパソコンを1台設置いたしました。

このパソコンを利用できるのは、紅梅会、健マネ三田会、三四会、医学研究科修了の方々です。まわりの卒業生の方々にお知らせいただければ幸いです。

#### (注意事項)

- ・利用の際は、インフォメーションデスクで手続きをお願いいたします。
- ・利用時間は、開室～閉室30分前までです。

※開室時間 学期期間中（月～金）9:15～21:00（土）10:15～16:00  
休業期間中（月～金）9:15～18:00（土）休室

- ・ご利用の際は、図書利用券が必要です。
- ・利用料金は、1時間につき1,000円（プリントアウト料金含む）です。
- ・データベースによる文献検索、電子ジャーナル・電子ブックの利用に限られます。一般的なウェブサイトの閲覧はできません。
- ・メール、Excel、Wordなどのソフトウェアは利用できません。
- ・USBメモリなどへの保存（ダウンロード）はできません。
- ・利用は先着順です。（事前予約は不可）

詳細につきましては、看護医療学図書室までお問い合わせください。

### 看護医療学図書室

E-mail: nmc-mc@sfc.keio.ac.jp

TEL: 0466-49-6204

FAX: 0466-49-3298

### レーザー治療専門

8万症例以上の実績の安心と安全



日本橋



レーザークリニック

治療項目…医療レーザー脱毛、傷跡治療  
しわ、タルミ、ニキビ、ニキビ跡の美顔治療  
アザ、シミ、ソバカス、ホクロ、イボ、魚の目  
その他

院長 藤井 俊史

慶應義塾大学医学部卒業  
日本形成外科学会認定専門医

看護師 藤井 由美 (旧姓・荒井)

慶應義塾大学医学部付属厚生女子学院 第88回生

診療時間：10:00～19:00 休診日：木、日、祝日  
〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目8-14 日本橋ビル2F



- 東西線・銀座線・浅草線【日本橋】駅 徒歩2分
- JR線・東京メトロ丸の内線【東京】駅 徒歩7分

完全予約制

Tel.03-5255-5520  
www.nihonbashi-f-laser.com/



**お知らせ** 会報はメール便配送しております

住所・氏名等に変更があった場合は、必ず事務局までご一報下さい。郵便局に住所変更届けが出ておりましても配達できません。お手数ですがよろしくお願いいたします。

事務局は原則として下記の日時に開けておりますが、諸事情により不在のこともございますので、あらかじめご了承下さい。なお、不在の場合は留守番電話に、回生、お名前、用件をお残しください。折り返しご連絡いたします。

なお、今年度の会費納入のない方には振込用紙を同封しております。忘れずに納入くださいますようお願いいたします。

浅田 頼子 (68回生)

**事務局** 月・木曜日 11時～17時  
**在室時間** 直通電話・FAX : 03-3341-8116

**平成24年度前期「特選塾員推薦」受付中**

平成13年4月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生の方も特選塾員となることできるようになり、今までに232名の方が会長推薦により特選塾員とされました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして塾員間の交流ができるようになり、多彩なメンバーとの交流もできるようになります。

紅梅会会長推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は下記の内容を明記して、紅梅会事務局まで郵送またはファックスでお送り下さい。

今回申込みをされた方は、3月末に推薦書を塾監局に送付しますので、6月頃の決定通知となります。なお不明なことは紅梅会事務局までお問い合わせください。

記

1. 氏名 (楷書で正確に) 2. ふりがな 3. 生年月日 4. 現住所 5. 電話番号 6. 勤務先 7. 回生または卒業年月

**計 報**

助23回生	鈴木かずゑ(旧姓西山)	平成22年8月12日	40回生	青木 和子(旧姓齊藤)	平成22年8月
24回生	佐川 昌代(旧姓菊池)	平成23年3月16日	42回生	篠塚みち子	平成22年8月10日
25回生	関沼ヨネ子(旧姓大野)	平成23年3月10日	49回生	白井 慶子(旧姓満生)	平成23年5月13日
25回生	森 りん	平成22年6月10日	49回生	水原 悦子(旧姓増田)	平成23年2月28日
25回生	森岡富美子(旧姓饗場)	平成21年7月10日	60回生	嶋原 操(旧姓嶋田)	平成22年6月
26回生	島村たか子(旧姓関口)	平成22年11月24日	68回生	赤田 夏海(旧姓竹内)	平成23年4月14日
27回生	増田 花江(旧姓戸村)	平成23年1月1日	短13回生	花岡麻衣子(旧姓小林)	平成21年10月1日
28回生	岩崎久美子(旧姓高橋)	平成22年8月15日			

**編 集 後 記**

この度の未曾有の震災に遭われた皆様方に、心よりお見舞い申し上げます。今回の会報では紅梅会会員の震災への取り組みを特集させていただきました。

被災された方々の一日も早い復興を心より願っております。

編集委員 山口伸子

**会員名簿に関する注意とお願い!!**

高齢者を対象とした未公開株販売に係る組織的詐欺事件の捜査で、紅梅会同窓会名簿が発見されたとの連絡が千葉県千葉中央警察署からありました。

会員の皆様におかれましては、詐欺事件に遭われませんよう十分にご注意ください。また、名簿を処分されます時には、裁断処分としていただきますようお願い申し上げます。

**次号のご案内**

東日本大震災の被害の大きさに心を痛めるばかりです。先日、会員の方が自主的に同窓会を開催した時の状況を報告してくださいました。編集委員としてうれしい限りです。震災に負けず、次号でも紅梅会会報を通して紅梅会会員の絆を強めていきたいと思っております。紅梅会の新規会員を増やしていくことも課題となっております。魅力ある紅梅会にしていくためのアイデアがあればぜひ紅梅会事務局までご連絡ください。

**広告掲載募集**

広告を募集しています。紅梅会会員の場合、名刺サイズ1枚(5.5cm×9.0cm)5,000円、2枚10,000円とさせて頂きました。読者(会員)にとってより身近な医療・看護関連の広告をご提案できればと考えています。広告掲載のお申込・お問い合わせは、紅梅会事務局までお願い致します。この会報(広告)は、紅梅会のホームページにも1年間掲載されます。

(この広告掲載の基準は2011年3月末日のものです)